

編集後記

二〇二〇年三月からはじまったパンデミックは二〇二一年にいたっても終息（収束）せず、三年目の二〇二二年に突入することになりました。

この間、奈良大学文学部史学科におきましても、学生・教員ともども、それまで経験したことがない事態にみまわれ、とまどう日々を現在もなおも送っています。

ただし、ウイルスと同様に人間もまた利巧で、たくましく、新しい生活様式にもしだいに慣れつつあるようです。奈良大学におきましても、WEB授業（リモート授業）と対面授業が並行してすすめられ、それもまた日常になりつつあります。

とはいえ、人と接するときにはマスクは不可欠であり、マスクのない日があつてもどつてくるのか、あるいはもどつてこないのか、不安をかかえての二〇二二年の開始となりました。

そのような不自由な毎日がつづくなか、本号にも力作をお寄せいただき、感謝申し上げます。奈良史学では、東洋史・西洋史・日本史の論考をかならず掲載するというのが原則となっておりませんが、本号でもその原則をまもることができました。ぜひご味読ください。

また、史学科HPや大学図書館のリポジトリにおいても、奈良史学はバックナンバーもふくめてPDFで公開されています。こちらもおおいにご活用いただければと思います。

不自由な日々のなか、史学会学生委員の諸君は活発な活動をすすめてくれました。その活動の一部を会報にて紹介しております。一生のなかで一度しかない大学生生活を懸命に送る学生諸君を史学科教員一同、精一杯ささえていきたいと思っています。（編集担当・河内将芳）

奈良史学 第三十九号

二〇二二年二月五日発行

発行者 奈良大学史学会

会長 足立広明

奈良市山陵町一五〇〇奈良大学文学部内

〒六三二一八五〇二

TEL 〇七四二一四四一二二五一（代）

振替 〇〇九九〇一三一三五九九九

印刷所 共同精版印刷株式会社

奈良市三条大路二丁目二一六

〒六三〇一八〇一三

奈良大学史学会よりのおしらせ

現在、『奈良史学』のバックナンバーを奈良大学図書館のレポジトリで公開（論文等の全文をデータベース化してインターネットで公開すること）するための作業が進められています。

既刊号ご執筆の方には、公開にあたってのご了承をいただくため、図書館から個別にご連絡を差し上げておりますが、未着の方もいらっしゃるかと思じます。もし、未着の場合は、奈良大学図書館へご連絡いただきますようお願いいたします。とくに、公開に支障のあるという方は、その旨をご報告ください。

また、デジタル化による公開はこれからも継続しておこなわれますので、今後本誌にご寄稿されます方は、レポジトリでの公開につきまして、あらかじめご了承ください。